

背景と目的

- ・「持続可能な開発目標（SDGs）」の目標2（飢餓根絶）には、ターゲット2.1として「2030年までに、飢餓を撲滅し、全ての人々、特に貧困層及び幼児を含む脆弱な立場にある人々が一年中安全かつ栄養のある食料を十分得られるようにする。」ことが定められています。アフリカ地域では、この目標達成が喫緊の課題となっている一方で、目標の達成度を測るための統計データの正確性及び信頼性が不十分な状況にあります。
- ・ これらを背景に、本事業では、アフリカ地域の農業統計担当職員を対象に、SDG 2.1の達成度を計測するための指標2.1.2「食料不安の経験尺度」に係るデータ収集の手法開発や分析能力の強化を実施します。

主な活動内容

- ・ ICTを活用したデータ収集手法の開発
対象国（アンゴラ、マリ、セネガル、タンザニア）において、家計調査等の既存の調査にFAOのFIES（食料不安経験尺度）調査モジュールを導入しデータを収集しました。調査にあたってはタブレットを活用し、省力的な面接調査手法を開発しました。また、コロナウイルス感染症の影響を評価するFIES Covidモジュールを導入し、コロナウイルス感染症の拡大が食料不安に及ぼす影響も把握しました。
- ・ 統計担当者の人材育成及び調査の実施
国家統計局（NSO）を通じた全国規模の調査の実施にあたり、統計担当者への指導及び統計調査員の研修を実施（アンゴラ、マリ及びセネガルから90名以上、タンザニアから35名）し、適切な調査を実施するための人材を育成しました。

事業成果

- ・ 対象国において全国規模の調査を実施するとともに、食料安全保障評価報告書を作成・検証し、対象国の食料安全保障の確保に貢献しました。
- ・ アフリカ地域は人口の増加及び経済的な成長が著しく、食料輸入量も年々増加していることから、こうした貢献を通じて、ひいては我が国の食料安全保障の確保にも寄与する取組となりました。
- ・ SDGグローバル指標については、世界各国で比較可能な指標の作成が求められており、アフリカ地域での整備を通じ国際的な取組への貢献も果たしました。

FAO本部サイト（英文）は[こちら](#)



調査の実施風景 ①

Source: Food and Agriculture Organization of the United Nations. Reproduced with permission.



調査の実施風景 ②

Source: Food and Agriculture Organization of the United Nations. Reproduced with permission.



タンザニアでの成果報告会

【お問合せ先】統計部統計企画管理官
03-3502-8092